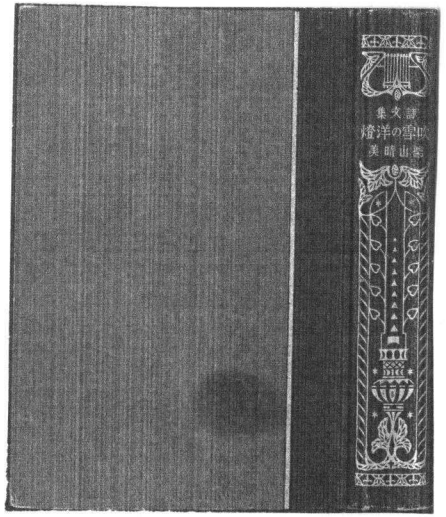
柴山晴美（はるみ）　詩人。明治三十八年一月二十三日愛知縣熱田町生れ、昭和五年十二月二十日歿（一九〇五―三〇）。本名昇。筆名のぼる涙、小島倭文雄、柴山牧園、柴山芳翠、美和啓一。大正十一年長野縣立上田中學校卒。これより曩（さき）くから詩作、回覧雑誌『水繪と少年』、『瞳』を作り、謄写版雑誌『白い花』（十三年『疎林』と改題）を創刊。十五年『疎林』特輯號として詩集『思想を焚く』刊。小樽校奉職のち、昭和二年上京して寶文館内『令女界』編輯部に入る。同時に處女詩集『花と金鑛』（昭和二年一月一日私家版）上梓。また西條八十、北原白秋、野口米次郎等の知遇を得、主として横山青娥編輯誌『愛誦』に詩作を發表。その後、抒情詩集『哀しき銀河』（昭和五年十月十日交蘭社）、第二詩集『處女地の雪』（昭和五年十二月十日交蘭社）を出版。盲腸炎から心臓衰弱を發して急逝した。

遺稿詩文集『吹雪の洋燈』（昭和六年四月二十五日寶文館）。